



男女とも、見ごたえある試合を
繰り広げました



市制施行40周年・伊達市総合体育館開館記念事業 復興支援招待試合・日本バスケットボールリーグ

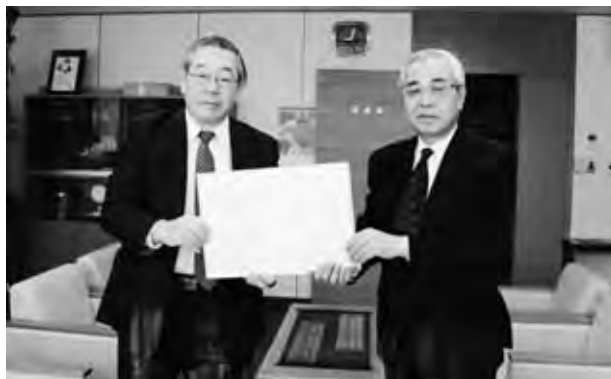
11月10日・11日、市総合体育館で、伊達市とふるさと姉妹都市の宮城県亘理町ミニバスケットボールチームとの復興支援招待試合が行われました。ふるさと姉妹都市復興支援事業として同実行委員会が主催したこの試合では、小学生の男女両チームの選手が全力でコート上を走りまわり、日頃の練習の成果を発揮しながら交流を深めました。

また、同日開催の日本バスケットボールリーグ（JBL）「レバンガ北海道対東芝ブレイブサンダース」の試合には、市内外から2,000名以上の観客が訪れ、迫力そしてスピード感満点のプロの試合に大きな歓声を上げていました。

ウェルシータワー伊達を 「津波避難ビル」に指定

11月1日、市と「ウェルシータワー伊達」（山下町）を所有する(有)こぐまウェルサービスは、「津波災害又は水害時における緊急一時避難施設としての使用に関する協定書」を締結しました。

網代町の「伊達経済センター」、山下町の「市営住宅駅前団地1号棟」に続き、3カ所目の「津波避難ビル」として、津波災害が起こったときには海岸周辺地区在住の方の一時的な避難場所になります。



調印式後の記念写真

歌いながら親子で手遊び楽しいな



子育て講座 「人を育てる唄~わらべうた」

10月24日、子育て支援センターえがおで、子育て講座「人を育てる唄~わらべうた」が行われました。

講師の若菜直美さんと千葉貴子さんが、昔ながらの子育ての知恵が詰まったわらべうたを口ずさみながら、にらめっこや手遊びを実演。講座に参加した16組の親子は「子どもと目を合わせて触れ合うことが大切です」と話す若菜さんの言葉に耳を傾けながら、いつもとは違った触れ合い遊びを楽しみました。

鞆 (ふいご) まつり

11月11日、黎明観刀鍛冶工房で「鞆まつり」が行われました。

鞆とは、火をおこし、その火力を強めるために使われる、金属の精鉄や加工には欠かせない道具。

鞆まつりは、刀工など火を扱う職人が鞆を清め火の神に感謝し、技能向上や一年間の作業の安全祈願をする、年に一度行われる伝統的な行事です。

当日は、渡辺惟平刀匠、弟子の菊地伸拓さんら約30名が参加し、一年の安全を願いました。



厳粛な空気の中、神事が行われました

「柿の実、うまく結べたよー」



長和小学校「柿の木まつり」

11月9日、長和小学校で20年以上前から行われている恒例行事「柿の木まつり」が行われました。

校舎横でたわわに実っている柿の実に負けないように自分たちの夢も大きく膨らむよう、児童たちがそれぞれ将来の夢を発表した後、上級生が中心になって色づいた柿を収穫しました。収穫後は、体育館で約900個の柿の皮をむき、1本のひもに5・6個の柿を結びつけたものを「甘い干し柿ができますように」と駐輪場の軒下に吊り下げました。



「虹の橋保育園」 完成・見学会開催

市内で8カ所目の認可保育所、私立虹の橋保育園（社会福祉法人くさぶえ運営）が完成し、来年4月の開園を前に、11月2日～4日に完成・見学会が行われました。

市内には7カ所の保育所が開設されていますが、それでも待機児童が多いことと、特に1歳以下のお子さんの保育場所が足りないとの理由で対応が急がれていました。

同保育園では、生後57日目以降の乳児から保育対象になるため、低年齢児の保育場所の拡大が期待されるほか、延長保育・一時預かり保育などの特別保育も行う予定です。

併設の「子育て支援センター」は一足早く来年1月から開所します。



完成した「虹の橋保育園」



見学会には多くの親子が訪れました